

1962年8月、初めて高知県外：信州のチョウを楽しむチャンスを作ってくれたのが下諏訪市の今は亡き津田進さんであることを生きたクジャクチョウとの初めての出会いの項でも触れているが、霧が峰高原に案内してくれたとき、和田峠や七島八島湿原周辺でやたらと目についたのが近縁のスジボソヤマキチョウであった。当時はほとんど砂利道を徒歩で探索したわけで、路傍に多くのチョウを見たのだが、ビーナスラインなど観光のための舗装道路が完備されて以降、チョウが激減したように思われて残念だ。

スジボソヤマキチョウが乱舞する七島八島高原周辺でも本種に出会っているかもしれないが、確かに本種だとわかってネットインをした記憶はなく、津田さんから頂いた美ヶ原産の標本だけが手元にある。ヤマキチョウは近縁種のスジボソヤマキチョウとともに成虫越冬することが分かっている、なぜかスジボソヤマキチョウだけが越冬後に翅裏面にシミなどの汚点がめだつなど汚損する個体が多いという図鑑記載があるが、実際、1997年4月に松本市浅間温泉近傍でまさにそういう姿をまのあたりにして、セイヨウタンポポを訪れた汚損個体のビデオ記録をしている。

